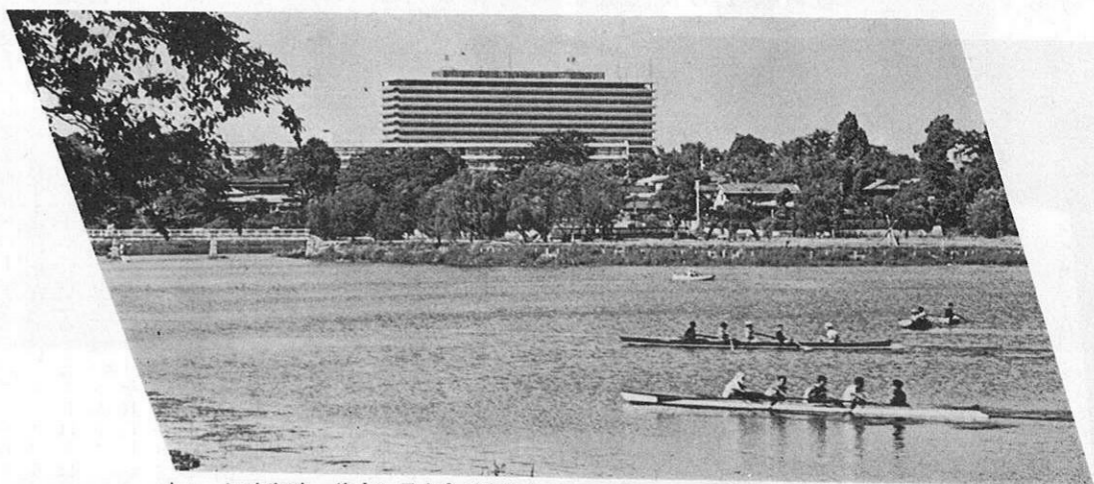




魅力ある九州の中枢都市へ



★……江津湖畔、後方に県庁舎がみえる

■ 第1節 開発の基本方向

熊本市は熊本平野の農業を基盤とし、明治中期以降九州における行政、教育、軍事、商業などの中核都市として発展してきた。

そして熊本市は、福岡市とともに九州における行政、経済の二大拠点として生成発展し、すでにかなりの都市集積を有している。

都市はその地域社会の経済活動および文化社会生活の結節点として、地域の内部循環を高め、他地域との交流を活性化させ、経済発展および文化社会において中心的な役割を果たすものであり、都市機能の拡充、集積は地域の開発上きわ

整備をはかり、あわせて近代的な市街地の開発をすすめて、活力に富み、創造的ふんい気な魅力ある住みよい都市づくりがすすめられる。

4 開発推進体制の確立

中枢都市建設を推進するについては、国、県、熊本市、周辺市町村および民間各界関係者を含めて開発推進に関する連絡会議を設け、計画および事業実施について緊密な連絡調整をはかり、広範多岐にわたる開発事業を有機的、効率的に推進する。

■ 第2節 都市域交通通信 体系の整備

中枢都市を目ざす熊本市域の道路体系は、市を南北に貫く国道三号を縦軸に、大分に通ずる国道五七号を横軸とし、国

所在都市に比べて格段に高い集積を示している。

◇ 将来の展望

中枢都市熊本は、おおよそ人口六十万程度の規模の都市になる。

そして交通通信体系が整備されることよって、九州における交通通信拠点としての性格が強まる。通信についても、データ通信をはじめ、通信機能の拡充整備が行なわれ、行政、流通などをはじめとする情報体系の整備とあわせて、九州における情報、通信拠点として機能が高まる。さらに、九州地域における行政的、文化的中枢管理機能をもった広域拠点都市としての性格が強まる。それとともに、九州広域観光の拠点都市として、また九州特に中南部九州における経済管理機能、貯留配送機能をもつ都市としての役割が高まる。

次に、都市のもつ魅力という点においても文化的で創造的なふんいきをもった明るい都市が形成される。文化、体育レクリエーション施設、住宅その他一連の都市生活環境が整備されて、人間性の回復に資するとともに、すぐれた人材の集積を促す魅力ある都市が出現する。

◇ 対策の方向と重要施策

1 都市域交通通信体系の整備

高速高能率交通網の整備、市域内外を結ぶ幹線交通網の整備、情報通信網の整備充実をすすめるとともに、これらと有機的に結合した都市域交通通信体系の整備をすすめて、都市機能を普遍かつ迅速に、市域内外に波及させ、人、物資、情報などの交通を促進して、市域内はもとより周辺地域の一体的な開発、都市化をはかる。

2 中枢管理機能の拡充整備

熊本市の都市機能の既成集積、発展の沿革、今後の開発可能性の高さなどを踏まえて、さらに都市機能の強化をはかるとともに、よりいっそう大規模かつ高水準の中枢管理機能の拡充、集積をはかり、九州における中枢管理都市としての建設をすすめる。

3 魅力ある都市づくりの推進

文化厚生施設をはじめ、上水道、下水道、清掃施設などの生活環境施設の

て重要である。

この意味から本県のみならず、九州における広域中枢都市としての機能を有する熊本市の開発をすすめることは、本開発のうえからもきわめて有効な手段であるので、今後熊本市を中心とする地域の総合的开发を推進する必要がある。

◇ 現況と問題点

本市の人口は年々増加しており、昭和四十年の国勢調査では総人口四十七万人に達し、全国で十五位、九州では北九州市、福岡市について第三位に位し、昭和四十四年十月一日現在では約四十三万六千人となっている。

産業構造は、就業人口で約七〇%（昭四十四）生産所得で約七三%（昭四十四）を占める第三次産業にかたより、中でもサービス業、卸小売業、公務の比重が高く、その反面、製造業、農業など生産部門の比重が低い。次に、都市の発展に大きな影響力をもつ中枢管理機能の熊本市における集積を、総合指標でみると九州においては福岡について高く、他の県庁